

平成22年度 国語表現Ⅰのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	国語表現	単位数	2	履修学年・区分	1 学年 2 単位
使用する教科書	教育出版 国語表現Ⅰ				
副教材等	京都書房 基礎からの国語表現の実践				

2 学習目標

国語の基礎である漢字力・語彙力を豊かにすることによって、国語で適切に表現する能力を育成する。また、文章や音声で表現する力をつけることによって、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現し、社会生活を充実させる態度を育てる。

3 学習方法

- ① ワークシートを使いながら、教科書のレッスンをを行う。
- ② 作文や発表により、表現能力を養う。
- ③ 副教材を利用し、漢字の読み書きを辞書を利用しながら学習する。
- ④ 副教材を利用し、慣用的に正しい表現や敬語の使い方を身につける。
- ⑤ 副教材を利用し、レポートを書く練習を行う。
- ⑥ 副教材を利用し、手紙文の書き方を学習する。

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学 期	4	原稿用紙の使い方 作文「自己紹介」	原稿用紙の使い方を習得する。 原稿用紙を正しく使い、自己紹介文を書く。	正しい原稿用紙の使い方が習得できたか。 自分らしい自己紹介文が書けたか。
		㊦ 1 仮名づかいを正しく ㊦ 2 送りがなの送り方	副教材の問題演習。 基本的な表現になれる。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
	5	㊦ 3 文字の使い分け ㊦ 4 句読点・表記符号の使い方	副教材の問題演習。 基本的な表現になれる。 紛らわしい文章表現を正す。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
		㊦ 5 同音異義語に注意して書く ㊦ 6 同訓異字の書き分け 作文「自分の考え」	効果的な正しい辞書の利用。  弁論大会に向けて、自分が日頃考えていること、感じていることを文章で表現する。	自分の考えを簡潔にまとめることができたか。 作文提出
	6	㊦ 7 類義語に注意して書く ㊦ 8 慣用的な表現 1 ことばに変える	副教材の問題演習。 基本的な表現になれる。  「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い、自己の表現能力の実態を把握する。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。  速く正確に丁寧に視写・聴写することができたか。
		ステップ1 速く正確に書き写す		プリントの提出
	7	ステップ2 メモを取る・メモで伝える	必要な事項を聞き取り、メモを取る。また、それを人に伝えるための的確なメモを作る。	正確にメモを取り、的確なメモを作ることができたか。 プリントの提出
	第 2 学 期	9	ステップ3 絵をことばにする	情報を取捨選択し、整理・記録するための基本的な技術を身につける。

2 学 期	10	ツールボックス3 四 まちがしやすい敬語の例	敬語表現を身につける。	正しい敬語表現を習得し、表現することができたか。 プリントの提出
	11	㊦9 正しい敬語表現 ㊦10 文の乱れに注意する ㊦11 明快な表現 ㊦12 文を短くする	副教材の問題演習。 紛らわしい文章表現を正す。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
	12	2 声の表現 ステップ1 声を出そう ステップ2 文字を声に変える ステップ3 スピーチの方法 ステップ4 声の発表会	呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し、発音に留意した声の出し方を学ぶ。 文の構造を把握し、その意味を伝える音読の仕方、特に声の固定や間の工夫について学ぶ。 スピーチのための事前準備をする。 実際に本番を体験する。	呼吸の仕方を理解し、積極的に発声できたか。 スピーチに向けて、準備ができたか。 発声や間の取り方、態度等に留意し、聞き手を魅了するスピーチをすることができたか。
		㊦13 文体を統一する、「デアル」と「デスマス」 ㊦14 事実を客観的に書く	文体を理解し、使い分けを覚える。 客観的な立場から文章を書く。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
第 3 学 期	1	㊦15 比喩の使い方 ㊦16 推敲する ㊦17 段落を分けて書く ㊦25 手紙文を書く	副教材の問題演習。 誤った文章表現を正す。 段落を理解する。 手紙の形式を学習する。 恩師にお礼の手紙を書く。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。  伝統的な手紙の形式を理解し、恩師に礼状等を書くことをとおして、通信文の書き方を身につけることができたか。 プリントの提出
	2	ことば遊びと創作 ステップ1 ことば遊び ステップ2 川柳を作ってみよう ステップ3 広告コピーを作ってみよう	ゲーム等をおして、ことば遊びのおもしろさを学ぶ。 川柳や広告コピーを作る。	ことばで遊ぶことの楽しさを体験できたか。 ユニークな作品ができたか。
	3	副教材の復習	副教材の問題演習。	1年間の副教材で学習した内容が身についているか。

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとめりに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は三つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 授業・教材に対する「関心・意欲・態度」	教材・辞書を用意し意欲的に活用したか。 実習を伴う授業に対して、意欲的に活動できたか。
2 辞書の正しい効果的な活用	演習問題の解答に当たり、正しく効果的に辞書を活用できたか。

3 正しい文章表現	目的に沿った正しい文章を書くことができたか。
-----------	------------------------

(2) 「評価の観点」の評価方法について

学習状況の観察・副教材等の提出物・定期考査によって総合的に評価します。